

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年6月26日現在

機関番号：34303

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K20801

研究課題名(和文)性成熟期女性労働者の主体的保健行動を目指したヘルスリテラシー向上プログラムの開発

研究課題名(英文)Development and effectiveness of the sex education program to improve of health literacy for female workers

研究代表者

河田 志帆(Kawata, Shiho)

京都学園大学・健康医療学部・講師

研究者番号：70610666

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文):本研究では、子宮頸がんの罹患率が上昇するなど女性特有の健康課題が顕在化する20歳以上の女性労働者を対象に女性の健康支援に重要な概念であるヘルスリテラシーに着目した健康支援プログラムの開発と有効性の検討を行った。プログラムの内容や難易度、教材などの理解度、難易度は良好であったが、所要時間については「長い」という意見があった。また、プログラムの受講前後の比較では、女性の健康に関する知識は有意に上昇したが、ヘルスリテラシーと子宮頸がん検診の受診行動については、有意な差が見られなかった。引き続きプログラムの内容や構成、実施時期等も踏まえ、検討が必要である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

性成熟期は子宮頸がんをはじめとした女性特有の疾患が顕在化し、女性の発達段階に応じた健康教育が必要とされている。そのため、女性特有の疾患への対処行動に着目し、自らの身体の状態に応じた健康情報の入手や取捨選択といったヘルスリテラシーという概念を導入した。この概念は、高度情報化社会における健康支援に必須のものであり、予防的な見地から生涯を通じた女性の健康を支えるために重要である。今後、この概念を導入し、あらゆる世代の主体的な保健行動を目指した健康支援において応用が可能であり、社会的意義が高い。

研究成果の概要(英文): In Japan, female workers in their twenties and thirties are increasing, and in women of that age, the incidence of cervical cancer is rising. Health literacy (HL) is an important concept in women's health. We have developed the sex education program to improve of health literacy for female in their 20s and over. According to the results of the survey, although the content, difficulty level, and the level of understanding of teaching materials for women workers were good, there was an opinion that "long" in the time of lecture in the program. In addition, comparisons before and after the program showed a significant increase in knowledge about women's health, but there was no significant difference in health literacy and cervical cancer screening behavior. Further study is necessary in the future, taking into consideration the content and structure of the program, and the implementation timing.

研究分野：地域保健

キーワード：ヘルスリテラシー 女性の健康 女性労働者

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

20～30歳代は女性の性成熟期とされ、生殖機能が最も安定し、妊娠や出産を考える時期とされている。しかし、女性の社会進出や生活様式の多様化から、この年代の女性健康課題として子宮頸がん罹患率の上昇などが報告されている。これらの健康課題は、妊娠や出産に影響を及ぼすだけでなく、女性の生き方の選択肢が増加する中で、生涯を通じた女性の健康に影響を及ぼすと考えられる。また、性成熟期女性を対象とした先行研究から、基本的な生殖の知識や性感染症の知識が低いことなどが報告されており、発達段階に応じた性教育について具体的に検討する必要がある。我が国では、女性の生涯を通じた健康づくりが提唱され、各ライフステージに応じた健康対策が推進されている。しかし、その対策は地方自治体に委ねられており、啓発を中心としたポピュレーションアプローチに留まっている。

一方、20～30歳代女性の約80%が、妊娠や避妊、女性特有の疾患についての情報入手や相談にインターネットを利用している。そこで、自らの身体状況に応じて健康情報を取捨選択し行動するヘルスリテラシーが重要になっている。女性の健康とヘルスリテラシーに関する先行研究では、子宮頸がん受診行動との関連が報告されており、ヘルスリテラシーは、女性の保健行動に関連する重要な概念として位置づけられている。特に女性特有の疾患や生殖器に関する不安や悩みは、相談しにくく、受診に結びつきにくい傾向にある。そして、女性のヘルスリテラシーを高めるには、自らの体への気づきが重要であり、教育が必要であるとの報告がある。つまり、ヘルスリテラシーの概念を含んだ女性の健康支援を検討し、実施することにより女性の保健行動を促進させる可能性があると考えられる。

そこで、本研究は女性特有の健康課題に対する対処行動に焦点を当て、ヘルスリテラシーの向上を目指したプログラムを実践することにより、疾患の予防や早期発見といった保健行動の促進をし、予防的な見地から女性の健康の支え、生涯を通じた女性の生活の質に寄与できると考える。

## 2. 研究の目的

20～30歳代の女性労働者を対象としたヘルスリテラシー向上に向けた教育プログラムを開発し、その有効性について検討すること

## 3. 研究の方法

本研究は、【予備研究(調査1・2)】と【本研究】から構成される。

### 【予備研究：調査1】：女子大学生版プログラムの開発

- 1) 対象者：近畿圏内の研究協力大学の20歳以上の女子大学生
- 2) 研究デザイン：1群の前後比較の準実験デザイン
- 3) 研究方法：

#### プログラム案の作成

性成熟期女性のヘルスリテラシー尺度(河田, 金城, 畑下, 2014)(以下、ヘルスリテラシー尺度)の構成要素を参考に女子大学生の意見、文献検討、専門職間の検討を経て作成した。主な内容は「月経から自分の体を知る」、「女性特有の疾患」、「女性の健康に関する情報と医療機関の受診方法」とし、約60分の講義形式とした。

#### 評価方法：

- ・プログラム受講前後の自記式無記名式質問紙調査を実施
- ・対象者の人数は健康な女性に対するプログラム開発の先行研究を基に設定

- ・評価項目は基本属性、ヘルスリテラシー、女性の健康に関する知識、プログラムの難易度、理解度、教材の難易度、子宮頸がん検診受診行動

分析方法：ウィルコクソンの符号付き順位検定およびマクネマー検定とした

#### 4) 研究結果

参加者は13名で、プログラムの難易度、理解度、教材の理解度はおおむね良好であった。プログラムの時間については長いという意見があったため、短縮する方向で再検討する必要がある。また、ヘルスリテラシー尺度および女性の健康に関する知識の得点は、プログラム受講後で有意に高い結果となった。この結果を踏まえ、有効性の検討を行った。

#### 【予備研究：調査2】：女子大学生版プログラムの有効性の検討

調査1の結果に基づき、講義時間の短縮および講義後のフォローアップを追加し、女性の健康支援プログラム（女子大学生版）“見直そう守ろう自分のからだ”とした。

1) 対象者：近畿圏内の研究協力大学の20歳以上の女子大学生

2) 研究デザイン：比較群を設定した2群比較の準実験デザイン

3) 研究方法：

両群の割り付け

研究協力大学が指定した学部単位で割り付けた

評価方法：

- ・女子大学生版プログラム実施前とプログラム実施6か月後に自記式無記名式質問紙調査を実施
- ・評価項目は両群基本属性、ヘルスリテラシー、女性の健康に関する知識を評価し、6か月後調査では初回調査項目に加え、子宮頸がん受診行動を評価した。

分析方法：

マン・ホワイトニーのU検定および<sup>2</sup>検定（fisherの性格確率検定）とした

#### 4) 研究結果

介入群は14名、比較群を60名確保し初回調査のデータからデータマッチングを行い、各14名を分析対象とした。6か月後の最終調査では、介入群は比較群と比べ、ヘルスリテラシーと女性の健康に関する知識が有意に高い結果となった。しかしながら、子宮頸がん検診受診行動について有意な差はみられなかった。今後の課題として、子宮頸がん検診受診行動の促進に向けて、実施時期や介入の内容等の検討が必要である。

#### 【本研究】女性労働者版“見直そう守ろう自分のからだ”の開発（以下、女性労働者版プログラム）と有効性の検討

産業保健看護職、大学教員、保健師で女子大学生版プログラムを基にしたグループインタビューを行い、女性労働者版プログラム（案）を作成した。女性労働者版プログラム（案）は、50分程度の1回の講義と月に1回のリーフレットの配布とした。

1) 対象者：近畿圏内の協力が得られた事業所の20歳以上の女性職員

2) 研究デザイン：一群前後比較の準実験デザイン

3) 研究方法：

評価方法：

- ・対象者の人数は、調査2のヘルスリテラシー尺度の得点の差を基に設定した

評価方法：

- ・プログラム実施前および6か月後の自記式無記名式質問紙調査
- ・評価時期と項目は表1に示す

分析方法：

ウィルコクソンの順位付き符号検定およびマクネマー検定とした

表1. 本研究の評価項目と内容

評価項目	評価時期	初回調査	プログラム	6か月後調査
基本属性 年齢 婦人科既往歴 性教育受講歴 子宮頸がん検診受診歴				
プロセス評価 プログラムの難易度 プログラムの理解度 教材の理解度 プログラムの構成(時間等)				
ヘルスリテラシー ヘルスリテラシー尺度 医療従事者に説明する自信				
女性の健康に関する知識				
子宮頸がん検診の受診				

#### 4) 研究結果

最終報分析対象者は19名で、プログラムの難易度や理解度、教材等は全員が良好な回答であり、プログラムの内容については適切であると考ええる。しかし、時間については、就業時間内ということもあり「長い」という意見があった。プログラム実施6か月後の調査では女性の健康に関する知識が有意に高く、ヘルスリテラシーと子宮頸がん検診受診行動について有意な差はみられなかった。

#### 4. 研究成果

本研究では、20歳以上の女性労働者を対象に女性特有の健康課題、特に子宮頸がんの早期発見に向けた健康支援プログラム“見直そう守ろう自分のからだ”を開発し、その有効性の検討を行った。結果、プログラムの難易度や理解度、教材の理解度は良好であり、女性労働者にむけたプログラムとして適切であると考ええる。また、本プログラムの受講前後の評価項目の比較では、受講後に女性の健康に関する知識は有意に上昇したものの、ヘルスリテラシーについては、有意な差が見られなかった。また、子宮頸がん検診受診行動についても受講前後で有意な差が見られなかった。先行研究では、ヘルスリテラシーと婚姻歴との関連が報告されており、女性労働者を対象としたさらなる調査が必要である。本研究の限界として、サンプル数の少なさが挙げられる。サンプル数は予備調査の結果から計算し確保しているため、結果は一定の評価ができると考えているが、研究デザイン等のさらなる検討が必要である。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 3 件)

河田志帆、畑下博世、若年女性労働者に対する産業保健活動の検討 20歳代女性労働者のヘルスリテラシーとライフイベントおよび子宮頸がん検診受診行動との関連、日本公衆衛生看護学会誌、査読有、4巻1号、2015、41-47

畑下博世、鈴木ひとみ、Denise Saint Arnault、川井八重、軸丸清子、河田志帆、ストレス対処に関する日本人女性の文化的特性について、日本地域看護学会誌、査読有、18巻、2015、13-22

Kawata S, Saito E, An exploratory pilot study on health education program to improve health literacy among female in their 20s, BMC Research Notes, 査読有, Vol.11, 2018  
DOI:10.1186/s 13104-018-3687-9

〔学会発表〕(計 5 件)

河田志帆、斉藤恵美子、性成熟期女性の保健行動の促進を目指したヘルスリテラシー向上プログラムの評価、日本公衆衛生学会(長崎)、2015

Shiho K, Emiko S, Effectiveness of sex education program improving health literacy for female undergraduate students, The 3<sup>rd</sup> KOREA-JAPAN Joint Conference on Community Health Nursing (Busan, South Korea),2016

Shiho K, Development of the sex education program to improve of health literacy for Japanese female office worker in their 20s, International Nursing Conference 2017 (Bangkok, Thailand), 2017

Shiho K, Emiko S, The association of health literacy and health behavior among female university student in their twenties, 21<sup>th</sup> East Asian Forum of Nursing Scholars & 11<sup>th</sup> International Nursing Conferences (Seoul, South Korea),2018

Shiho K, Development of a sex education program to improve health literacy for Japanese female workers, 22<sup>th</sup> East Asian Forum of Nursing Scholars (Singapore), 2019

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6 . 研究組織

### (1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

### (2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。